



## 「地域とともにある学校」を礎に 下野市立細谷小学校 校長 蓬田 みどり 氏

細谷小学校の校長先生に  
伺いました。



本校は1873年(明治6年)3月15日、橋本地区に『時習学舎』として創立され、今年度150周年を迎えました。これまで天災や様々な社会情勢の影響により、校名や所在地、学区、規模を変えながら、幾星霜を重ねて、現在に至ります。卒業生の中には、初の民政選挙で本県初代知事となられた小平重吉氏をはじめ、政経・実業・医療・農政・教育等多方面に渡って社会貢献に尽力された方が多く、本校の誇りとなっています。

150年前、学校創設に向けた当時の地域や保護者の熱い思いは、今もなお変わらず、学校ボランティア活動やアルミ缶・古紙回収活動等で、温かな支援をいただいています。子どもたちが校舎北側の畑をお借りして、さつまいもやかんぴょう、かぼちゃなどたくさんの野菜を育てるとき、「野菜の先生」になっていただくのも地域の方々です。また、春には「いちご狩り」、夏に「かんぴょう剥き」と「天日干し」、秋には「梨狩り」に「さつまいもほり」など、地域農家のお力添えで貴重な体験活動がいくつも実施できます。自然に触れ、季節を五感でとらえ、人とのつながりを感じる活動の中で、子どもたちは学びを深め、地域への感謝の気持ちを育みます。そして、これらの活動は、本市「小規模特認校」の本校にとって、他校にはない本校ならではの取組となっています。今後も、地域の方々と連携して子どもたちを見守り育てる「地域とともにある細谷小」であり続けてほしいと願っています。

## らいさまNEWS

ニュース 下野市は本巢市と友好都市協定を結んでいます。



昭和60年(1985年)に旧根尾村(現岐阜県本巢市)の老人クラブから旧国分寺町へ、日本三大桜である根尾谷の淡墨桜の実生苗20本を譲り受けたことから始まった縁を礎とし、本巢市と下野市は令和4年3月20日に友好都市協定と災害時における相互応援協定を締結しました。

協定は市民を主体とした歴史・文化・観光等の交流を促進させることと災害時には相互応援できる体制を目的としたものであり、協定の準備段階から両市の国内交流協会や文化協会、商工会などが淡墨桜感謝祭への招待や表敬訪問による相互交流を始めました。コロナ禍の中、未だ大規模の交流は困難な状況ですが、昨年末には本巢市特産のブランド柿である富有柿を道の駅しもつけで限定販売するなど、市民や行政間の交流は継続しています。

譲り受けた淡墨桜の  
親木は国の天然記念  
物なんだよ!



## 編集後記



今回の取材は、石橋地区の南西部細谷小学校の学区内を訪れました。目的は当地区の太古から現在までの人々の生活の移り変わり取材しました。取材では各地区を訪問させていただきましたが、字や小字の地名は色々な呼び方があり、その由来が歴史上の出来事であったり、周辺の地形だったりしました。たとえば細谷は、台地と台地間の細長い谷地なのでそのように呼ばれていたようです。小学校の学区についてもその歴史を学ぶことができました。また、小学校と学区内の人々との結びつきも深く、まさに学校応援団であるとしみじみ感じました。昔は学校への行きかえりも現在の通学路でなく、未整備の川を舟で渡ったり、遠回りを余儀なくされるなど大変な苦労があったと思います。自分の事になりますが、小中学校は約4キロメートルの道程でありました。冬などは、朝日が筑波の峰の少し上にあるのを背中に受け登校した時を思い出しました。下野市の各地には、かくれた名人がたくさん居ます。らいさまで少しずつ紹介できたら良いなと思います。(諏訪)

【表紙】細谷小学校